

川と共に生きる

第2回国包伝統文化祭
平成28年9月3日、4日
国包けやきの会

国包（簡易年表）

| 和 暦 | 西暦 | で き ご と | 和 暦 | 西暦 | で き ご と |
|------|------|--------------------------------------|------|------|---|
| 大化元 | 645 | 法道仙人、日光山常楽寺をはじめる | 昭和33 | 1958 | 上荘橋新築工事着工 |
| 嘉禄元 | 1225 | 加古川の大洪水、国包村全村流失 | | | 昭和35年(1960年)竣工 |
| 天正 8 | 1580 | 玄徳によって教信寺をはじめる | 36 | 1961 | 上荘小学校国包分校廃止 |
| 文禄 3 | 1594 | 加古川舟運開く(瀧野－高砂) | 37 | 1962 | 国包1年生八幡小学校へ |
| 慶長 9 | 1604 | 加古川舟運(本郷－高砂)完工 | 42 | 1967 | 国包郵便局新局舎完成(国包より厄神へ) |
| 元文 2 | 1737 | 国包村明細帳 | 44 | 1969 | 国包保育園開園 |
| 宝暦 6 | 1756 | 国包長浜屋新六郎 築山を造る | 45 | 1970 | 大雨で上荘橋 橋脚陥没 |
| 文化13 | 1816 | 国包村平左衛門 亀之井用水路開削 文政 7年(1824年)用水完成 | 46 | 1971 | 昭和49年(1974年)鉄筋の永久橋に 第5回全国建具展示会で吉田利行 総理大臣賞受賞 |
| 天保 4 | 1833 | 天保加古川筋大一揆 | 52 | 1977 | 山手中学校 加古川市へ移管 |
| 嘉永 2 | 1849 | 国包川辺実況図が描かれる 上之荘神社 舞台拝殿造営 | 54 | 1979 | 厄神町内会誕生 |
| 明治 7 | 1874 | 国包尋常小学校開校 国包郵便取扱所開設 | 59 | 1984 | 三木線、第3セクターに |
| | | | 61 | 1986 | 上荘地区園場整備事業完工 |
| 22 | 1889 | 町村制により国包は上荘村の大字となる | | | 国包鉄橋が壊れる、中央部をトラス構造に |
| 33 | 1900 | 国包銀行創設 | 63 | 1988 | 国包郵便局 新局舎(現在)で営業開始 国包公会堂 新築落成 |
| 36 | 1903 | 上荘尋常小学校、国包尋常小学校設立 | 平成元 | 1989 | 加古川機動車区 厄神駅北へ移転決まる 平成11年(1999年)移転完了 |
| 大正 2 | 1913 | 播州鉄道 加古川国包間営業開始 | | | 加古川大堰完成式 |
| 5 | 1916 | 播州鉄道 国包別所間営業開始 ※この時の国包駅は現在の厄神駅 | 5 | 1993 | 美濃川の亀の井頭首工事完成 東播用水完成 |
| 6 | 1917 | 播州鉄道 別所三木間開通 | 7 | 1995 | 阪神・淡路大震災 |
| 7 | 1918 | 加古川改修工事開始 | 8 | 1996 | 加古川市立漕艇センター オープン |
| 13 | 1924 | 上荘村で学校問題(国包分校)から紛議 | 9 | 1997 | 国包保育園廃止 加古川北防災ふれあいセンター オープン |
| 14 | 1925 | 国包尋常小学校を上荘尋常小学校に統合 国包分教場設置 | | | 加古川市文化連盟賞 洋画の藤原向意受賞 山陽自動車道全線開通 |
| 昭和 3 | 1928 | 上荘橋架替工事成る | 13 | 2001 | 国包簡易水道メーター取り付け |
| 22 | 1947 | 組合立山手中学校設置 | 14 | 2002 | 元国包小学校、国包保育園撤去 |
| 25 | 1950 | 加古川市誕生 | 20 | 2006 | 三木鉄道廃止、代替バスに |
| 28 | 1953 | 国包建具協同組合技能者養成所開所式 | 26 | 2014 | 東播磨南北道路開通 |
| 30 | 1955 | 八幡、上荘、平荘村 加古川市に合併 国包船町簡易水道工事竣工 | | | |

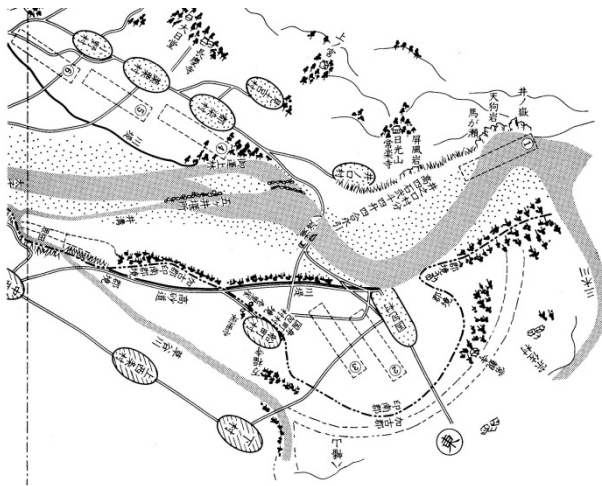
(参考) 元文2年(1737年) 国包村明細帳当時の人口

| | | | | | |
|------|----------------|-----|--------------|------|----------------|
| 国包村 | 1 2 5 軒6 7 0 人 | 船町村 | 3 5 軒1 6 0 人 | 都染村 | 5 9 軒3 1 0 人 |
| 栗栗村 | 8 6 軒4 3 5 人 | 山角村 | 6 7 軒3 3 4 人 | 芝村 | 3 7 軒2 0 8 人 |
| 中村 | 4 0 軒2 1 2 人 | 里村 | 1 4 3 軒7 2 7 | 小畑村 | 1 0 2 軒4 0 8 人 |
| 中山新村 | 3 9 軒2 2 2 人 | 池尻村 | 6 3 軒3 2 5 人 | 加古川村 | 2 0 2 軒9 1 9 人 |
| 蔭山新村 | 3 4 軒1 9 3 人 | | | | |



嘉永時代の国包川辺実況図

亀之井用水開削事業 事業開始200周年
畑地を水田に、そして新田開発

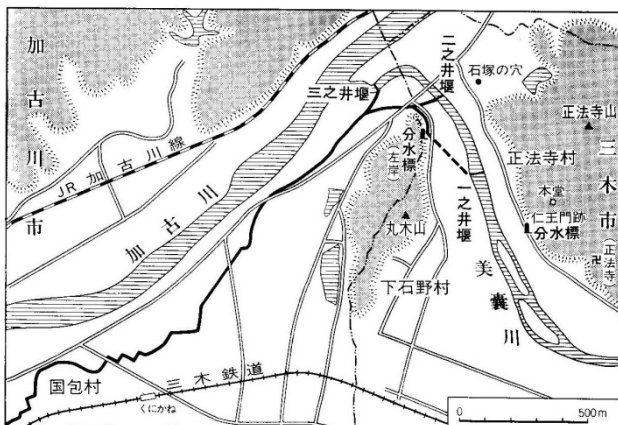


加古川市史 第五巻 p344 一部分

村絵図（文化8年、1811年）

亀之井 開削工事直前の図である

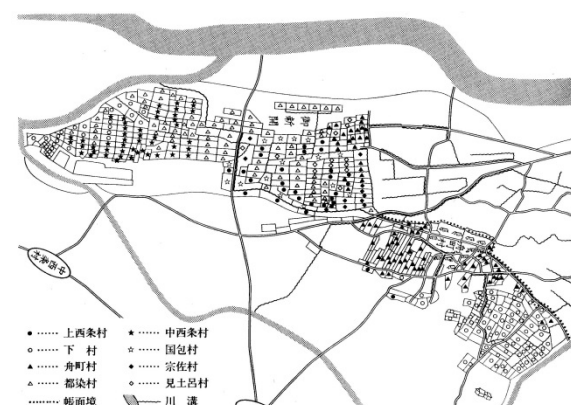
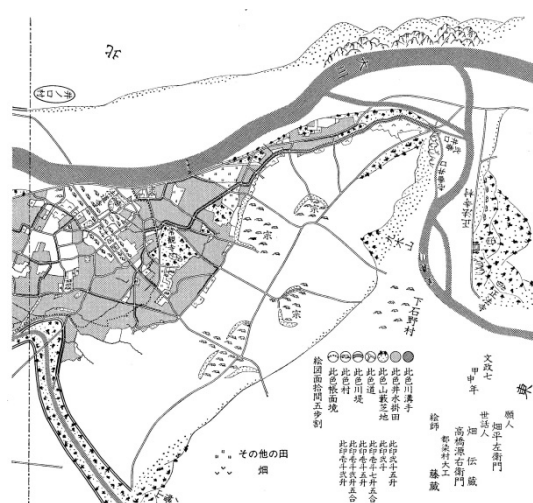
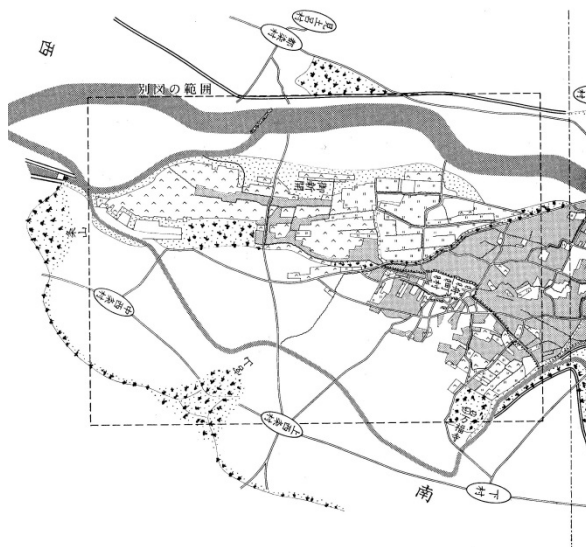
国包から美囊川（三木川）への道は記されていない。国包から左方向に伸びる高砂道は現在の国包踏切から厄神駅前を通る道に近い。川沿いは林となっていたようだ。亀之井用水が出来た時には、用水は川原を悠然と流れていたものと推察される。



加古川市史 第二巻 p634

亀之井の図

現在の地図の上に完成時の亀之井用水の流路を重ね合わせてある。現在は美囊川からの用水は一旦堤防をくぐって加古川河川敷に入り、その後再度堤防をくぐって国包の町に流れ込む。河川敷では、大崎稻荷神社前を用水が水をたたえて流れていく。耕地整理により流路も多少変化している。



加古川市史 第五巻 p325-327

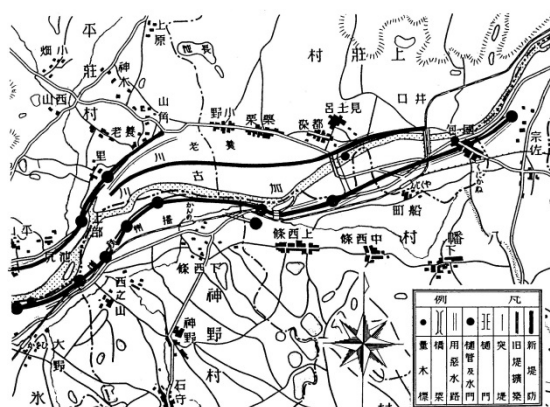
国包村絵図（文政7年、1824年）

亀之井用水が完成した年の絵図である。

国包の石高（1石は米2.5俵、約150kg）は用水完成前の元禄15年(1702年)の310石より用水完成後の天保5年(1834年)には535石と73%の伸びを示した。畑地が水田に転換できたこと、新田開発（高砂道の川寄り）が進んだことがその理由である。新田は左上図の部分、その詳細が左図（別図）である。

河川改修

暴れ川である加古川の流れを整え、洪水を防止 以降、国包では洪水は起こっていない

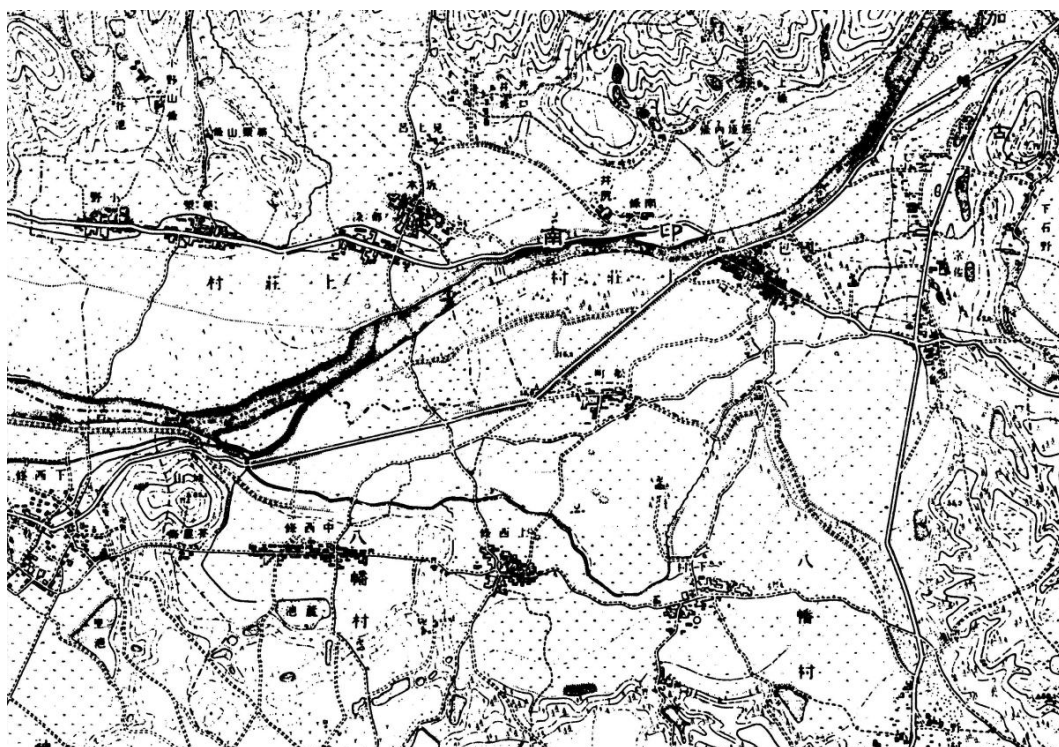


加古川改修工事平面図 部分「西谷家文書」より

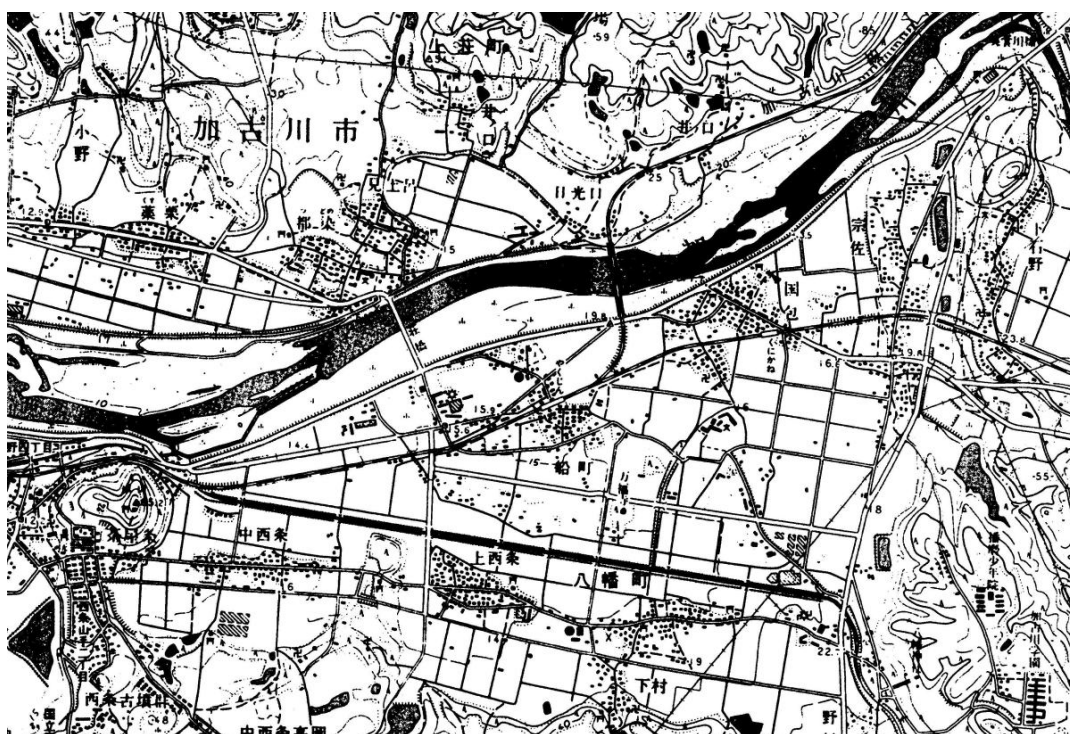
加古のながれ（加古川市史余話）p229

加古川河川改修工事

大正7年（1918年）から昭和8年（1933年）の工事で加古川堤防が付け替えられた。国包鉄橋から上荘橋にかけては従来の堤防（国包鉄橋～厄神駅前）よりも川寄りに新堤防が設けられ、国包町並近くでは川幅を広げるために、町の一部が切り取られた。この工事により、今の河川敷にあった墓地は厄神に移り、国包町並にあった宿屋、化粧品店など10軒が移転した。

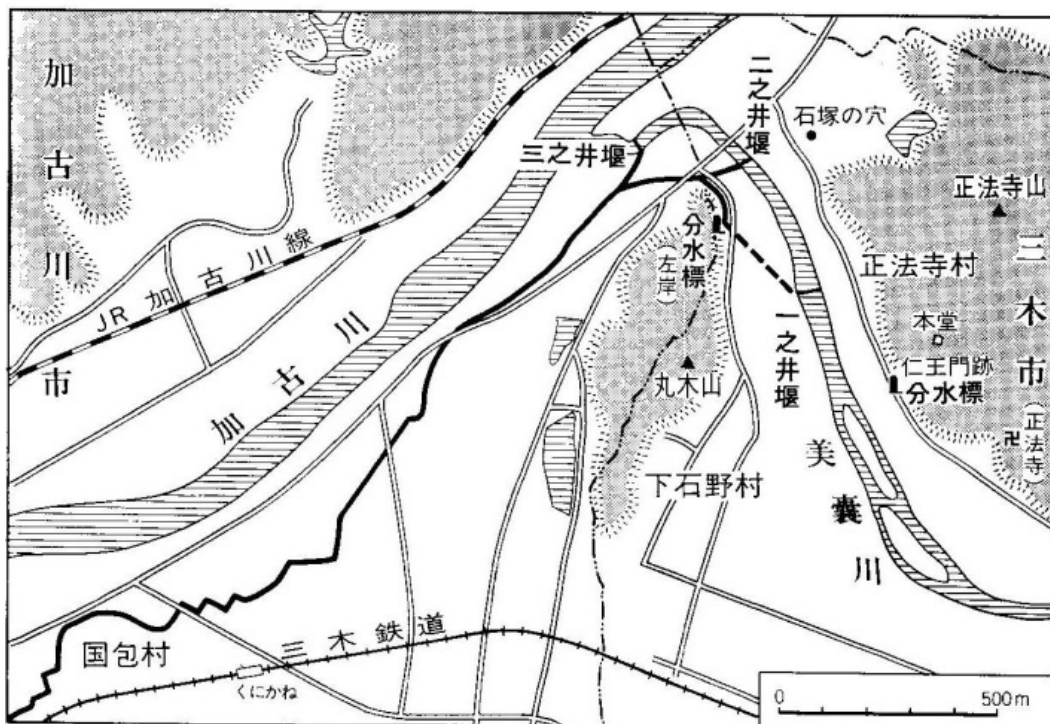
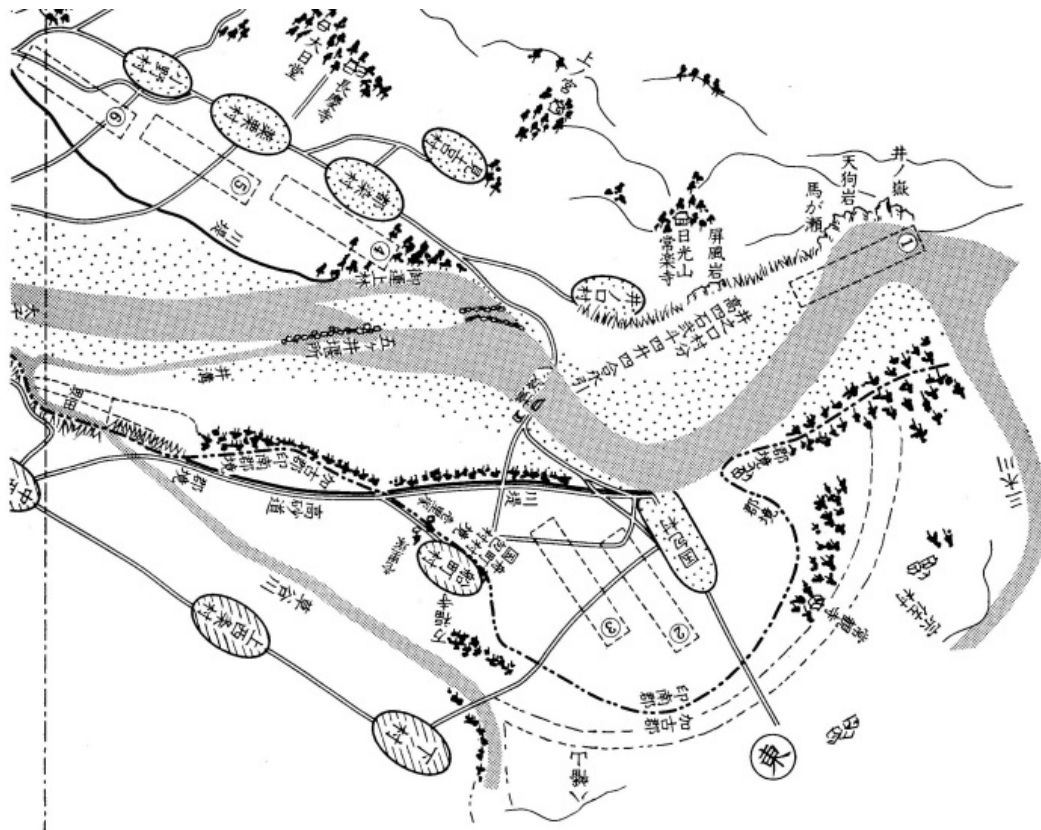


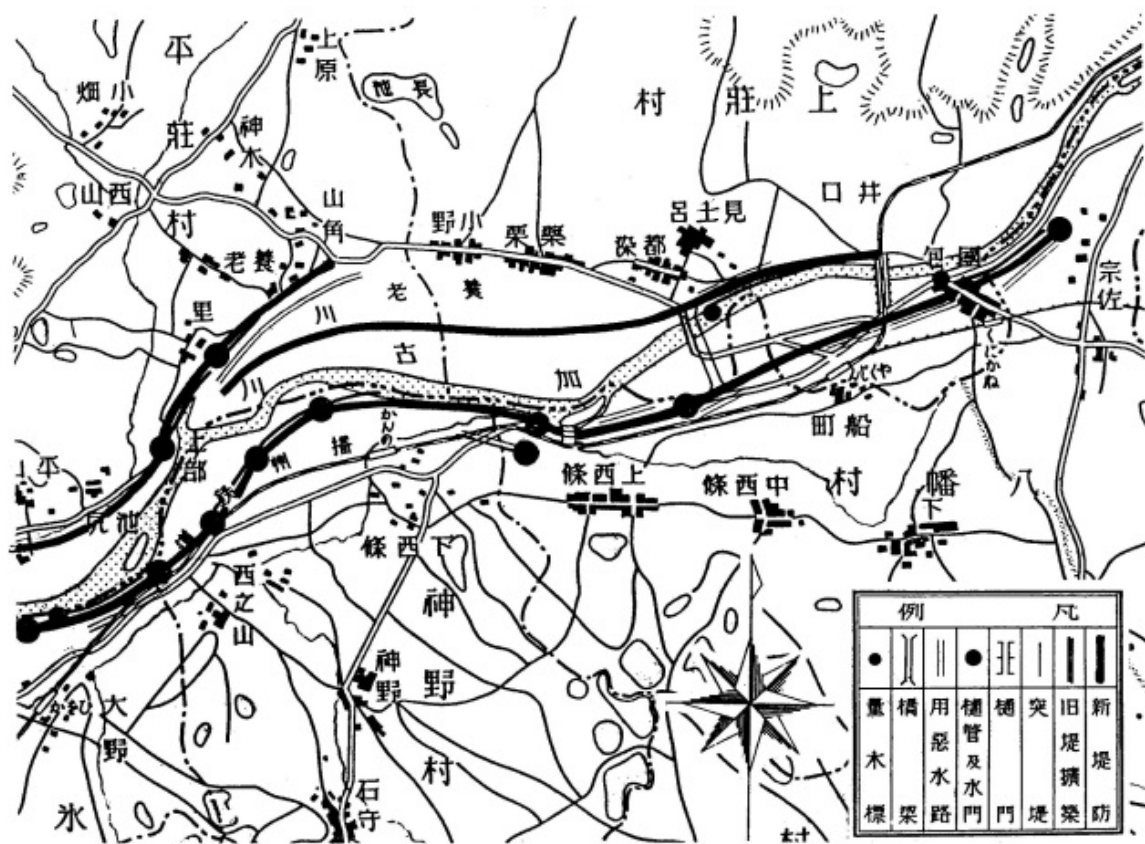
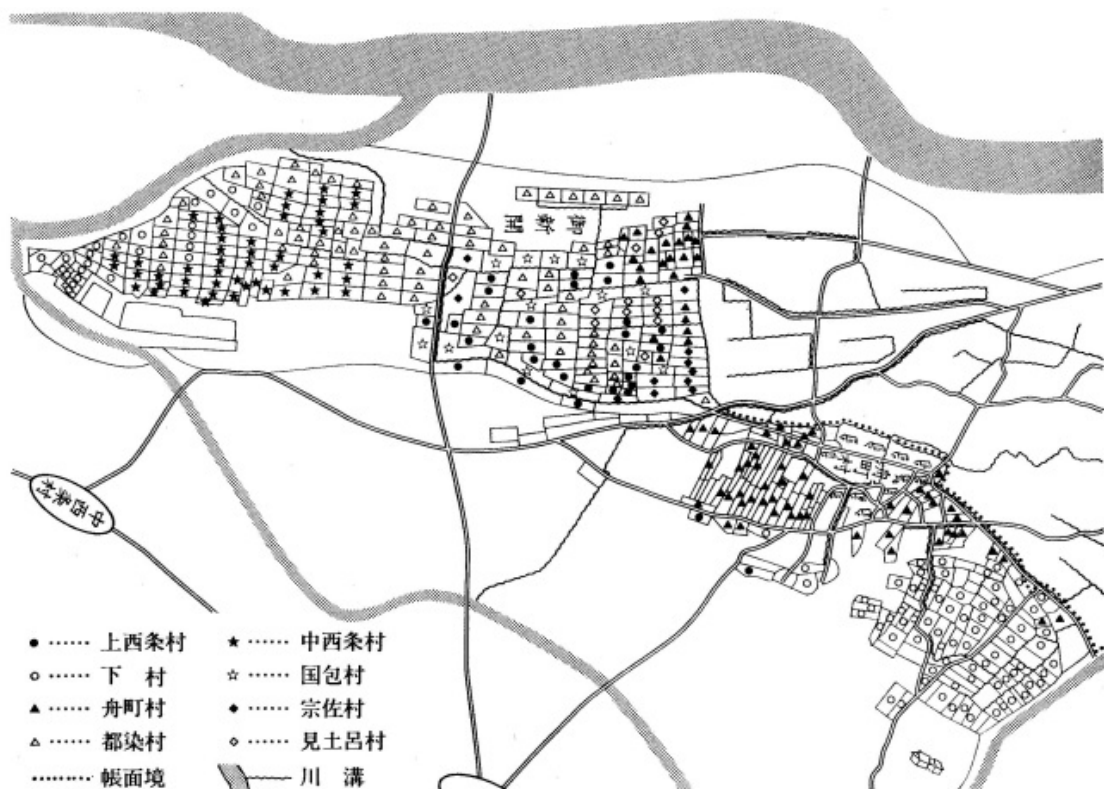
国包付近の地図 明治16年（1883年）



国包付近の地図 昭和55年（1980年）

(使用地図の拡大版)





加古川改修工事平面図 部分「西谷家文書」より

加古のながれ（加古川市史余話） 「加古川市史」付録
加古川市史編さん室、1997年11月20日発行

